

防災だより

いますぐ出来るマンション防災

Vol.08

発行 ライフポート西洋

防災情報の正しい 受け取り方と発信の工夫

～デマに惑わされない、確かな行動のために～

被害者にも加害者にもならないために

地震・火災・台風などの災害発生時は、状況を把握するために多くの情報が飛び交います。

しかし、情報が多くなるほど、誤った情報や古い情報が広がることもあります。

だからこそ、災害時には情報の出どころや発信日時を確認し、正確な情報をもとに行動することが大切です。

正しい情報を受け取るための3つの習慣

1 正しい情報源を 登録する

気象庁、防災科学研究所、自治体、消防庁、NHKなどの公式アカウントや防災アプリをスマホに登録しておく

2 情報の「発信日時」 を確認

数年前の投稿や古いニュースが再拡散されている場合があります。「何日前か」を必ずチェック

3 一次情報にあたる クセを

「友達が言っていた」「誰かが回してきた」ではなく、出典・出どころをたどる癖をつけましょう



役立つ情報源の例 (事前にブックマーク推奨)

自治体

市区町村の公式HP／緊急メール配信サービス（防災メールなど）

国の機関

気象庁（防災気象情報）／国土交通省／内閣府防災

メディア

NHKニュース防災アプリ／民放の災害速報

専門サイト

防災科学技術研究所／tenki.jpの災害特集ページ

SNS

自治体・消防署・ライフライン各社の公式Xアカウントフォロー

デマ・誤情報の例とその対策

事例	問題点	対策
 ○○駅が崩壊したらしい	写真は数年前の災害画像だった	情報元と投稿日時を確認する習慣を
 ○○の水道は汚染されている	非公式なチェーンメールから拡散	自治体や水道局の情報を直接確認
 SNSで助けを求めると救助が来る	通報とは別。実際は対応されないケースが多い	119や災害用伝言板を正しく使用



情報発信する側のマナーと責任

あなたが誰かに情報を伝える側になったとき、以下の点に注意しましょう。

ポイント	内容
確認できたことだけを共有	→ 不確かな情報は「未確認です」と添えて
感情的な発信は避ける	→ 誤解や混乱を招く「過剰な表現」は避ける
必要なことだけ簡潔に	→ 例：○○が断水中。 復旧は○月○日予定（市HPより）など
匿名の情報を再送信しない	→ 出所がわからない情報は共有を控える
周囲への声かけも「発信」	→ 高齢者・子ども・視覚障がい者へ 情報を口頭で伝えるのも大切な役割です



マンション内の情報共有の工夫（例）

掲示板

エレベーター横や1階に災害時用掲示スペースを設置しておく

チャットグループ

居住者LINE・Slack・マンション防災連絡網などを作成



情報班の設置

管理組合で「防災情報班」を作り、信頼できる情報だけを共有

無線機・インターホンの活用

マンション内での音声伝達も備えておくと安心

正確な情報は、命を守る第一歩

「正確な1つの情報」は10人以上の混乱を救います。災害時こそ「冷静な受け取り方」や「確実な伝え方」が、周囲のパニックを防ぎ、命を守る共助の第一歩になるため、「落ち着いて」「正しく」伝える人になりましょう。